

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 当社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
 を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、
 よろしく願い申し上げます。

敬 白

記

■ 実施日 2016年2月15日(月) ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
6559 2 (8B317)	曜日指定 CKS1B 1q21 増幅	骨髓液 1.0	H00 (H)	冷蔵	7~10	2730 + 397 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてく ださい。 受託可能日は月~金 曜日です。 &コ
		血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5 (G)						

検体は採取後、当日中にご提出ください。

※2：血液学的検査判断料

● CKS1B 1q21 増幅

多発性骨髄腫の予後因子として有用とされている 1q21 増幅を FISH 法にて検出いたします。

多発性骨髄腫(Multiple myeloma : MM)は、形質細胞が腫瘍化した疾患で多彩な病態を示し染色体異常も多く報告があります。その中でも 1q (1 番染色体長腕) 増幅、17p (17 番染色体短腕) 欠失、IGH-FGFR3 t(4;14)転座、IGH-MAF t(14;16)転座が予後不良因子とされており、またその予後不良因子が複数存在した場合はさらに予後が不良になると報告されております。

1 番染色体の異常は MM に高頻度に出現するとされていますが、特に 1q21 領域の増幅は無症候性骨髄腫から症候性骨髄腫への進展と相関し、また再発 MM において高頻度に認めるなど、MM での独立した予後不良因子として重要であることが報告されております。

従来に分染法による染色体分析(G-band)において、MM では腫瘍細胞の分裂中期核が得にくいいため、間期核 FISH 法による CKS1B を指標とした 1q21 増幅の解析は有用となります。

▼疾患との関連

多発性骨髄腫

▼関連する主な検査項目

p53 del(17)短腕欠失、IgH-MAF t(14;16)転座
IgH-FGFR3 t(4;14)転座

▼検査要項

検査項目名	CKS1B 1q21 増幅	
項目コード	6559 2	
検体量	骨髄液 1.0 mL	血液 5.0 mL(ヘパリン加)
容器	H00 (H 保存液入り)	PH5 (G ヘパリン入り)
保存方法	冷蔵保存してください。	
所要日数	7~10 日	
検査方法	FISH	
実施料	2730 点+397 点(「D006-5」染色体検査(すべての費用を含む))	
判断料	125点(血液学的検査判断料)	
備考	 凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。 &コ	

検体は採取後、当日中にご提出ください。

●新参考文献

稲澤 譲治：臨床 FISH プロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90~95, 1997. (検査方法参考文献)

石田 禎夫：臨床血液 54 (10)：1856~1866, 2013.